

ちよつとしい話

～ バランス ～

私達の生活にはヤジロベイの様に絶妙なバランス（balance）をとる必要が多々あります。ご存じのように、肉体を健康に保つ為には食生活に於ける栄養のバランスが必要ですし、適度の運動と精神面に「フラストレーション（frustration）欲求不満」が無い事等、大変多くの事柄でバランスを要求されます。ですから、好き、嫌いだけで判断は出来ません。家庭に於ける、父母の役割にも、もちろん、それに合ったバランスがあると思います。乳は出なくても、父は呼称で「ちち」親となります。それにひきかえ母親の「ちち」は赤子の成長期には授乳を与える、とても大切なものです。しかし男の「ちち」は父親として一生子供の成育に目を光らせ間違いない人生を送らせる任務をもっています。比べて母親の「ちち」は赤ん坊の時期にのみ必要とされます。男親の役割と女親の役割には大きな違いがあると言う事でしょう。したがって子供にとって両親が揃っている姿が理想であり、バランスのとれた形と言えます。又、人の魂魄（魂）は三歳までに出来てしまいます。此の事から幼児は三歳までが特に大切という事になります。今や、ゼロ歳児を保育園に預ける親もいるそうです。そんな子供の将来がとても心配です。何故ならば、預けた子供の時間を鑑みますと、子供の魂の親は保母さんが約80%以上を占めてしまうと言う事になります。親子のつながりはDNA鑑定で分かりますが、魂のDNAは化学では存在が解明できません。やっかいなものです。仏教的に言えば魂とは霊が成仏した慈悲心を持つ形となり、成仏しない霊は鬼畜生の心を持つ鬼になった形となります。

現社会を見てみると、親兄弟の絆、家族の成り合い、相互の関係に於いて魂と鬼のバランスがとれずに悩み苦しみながら生活をしてみえる家庭が増えているようです。魂と鬼のぶつかり合いが親族の殺傷事件を引き起こします。親族の殺傷事件は昨年度起きた全ての殺人事件の約半数に迫る勢いでした。

故に、子供の幼児期の成育は特に大切と言えます。それでは次に、自分を中心に考えて、前につながる先祖と後ろにつながる子や孫とのバランスはとれているであろうか考えてみましょう。先祖にかける費用と子や孫にかける費用には歴然とした差が生じていませんか。では、心の運びは如何いかがであろうか、心の運びも親よりも子や孫に対してのほうが強いのではありませんか。親とは何ぞや、事実親が無ければ子の存在は全く無いのであります。しかし親の存在価値を無くしているのも親自身であると思います。それは物心両面に於いて正しい判断能力を身に付けさせる事が出来ない親が多いからです。曾祖父、祖父、両親、子、孫、そして又、孫が親になり、と言う様に、自分を中心に上へ二代、下へ二代と上から下へ流れる上位、下位の順序があるにも関わらず、昨今は主人よりも子供中心の家庭が増えてきた事の狂いが尊属事件に大きな影響を及ぼしているのではなかろうか。先祖と自分の絆、自分と子の絆のバランスが如何どうなっているのか、今一度考えて見る必要があります。

世界の経済、世界の環境、世界の平和、世界の宗教、全ては一心にあり（47号参照）、大きく言えば宇宙のバランスがとれてはじめて地球上の人類に理想の世界が開ける事になると思います。巍巍

善入院油掛地藏尊